

事業名：交通事故等災害遺児手当

子ども家庭課 児童母子係

政策	03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実								
施策	03 子育て環境の充実								
基本事業	99 施策の総合推進								
開始年度	昭和44年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
交通事故や災害により生計の中心となる者を失った遺児の養育者	
手段（事務事業の内容、やり方）	
交通事故や災害により生計の中心となる者を失った遺児の養育者に対して、幼児2,000円／月、小中学生2,500円／月、高校生3,000円／月の養育手当を遺児の養育者に支給	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
養育費の一部経済的支援により、交通事故等災害遺児を健全に育成養育する。	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	交通事故等遺児手当受給世帯	世帯	3	3	4	4
対象指標2						
活動指標1	支給回数	回	2	2	2	2
活動指標2	広報手段の数	回	4	4	3	4
成果指標1	支給遺児児童数	人	5	4	6	6
成果指標2						
事業費(A)		千円	177	138	194	198
正職員人件費(B)		千円	803	802	781	391
総事業費(A+B)		千円	980	940	975	589

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	交通事故等の災害により、生計の中心者を失った遺児の扶養者に対し手当を支給し、遺児の健全育成を助長するとともに、福祉の増進を図ることを目的とする。	4世帯 6人 幼児 2,000円×1人×11月 小中学生 2,500円×1人×11月、2,500円×3人×12月 高校生 3,000円×1人×12月 図書カード 3,000円×6人

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
遺児世帯への激励・慰問による精神的援助及び養育費の一部援助を目的として開始した。	
事業を取り巻く環境変化	
遺児世帯への激励・慰問による精神的援助及び養育費の一部援助を目的として事業を開始したが、現在では受給世帯も少なく遺児数が減少している。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由 根拠 江別市交通事故等災害遺児手当支給条例に基づき、交通事故等で世帯の生計中心者を失った世帯の生活安定、児童の健全育成から市が行うのは妥当である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度小さい <input type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由 根拠 受給対象世帯（児童）が限定されていることから、上位基本事業への貢献度は小さい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input checked="" type="checkbox"/> 上がらない	理由 根拠 交通事故等災害は予測ができないため。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 該当する遺児児童数は横ばいで推移しており成果向上余地は小さい。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する方法はありますか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由 根拠 事務量少ないのでコストへの影響は少ない。